



ムーディーというより
寝起き感満点の森本さん（ほぼ自分家）

て、このスペースが設けられているのだ。

「僕の寝姿、ちよつとムーディーすぎました？」と気にする森本さんだったが、ええと、寝起きの人そのものだったので、全くもって大丈夫です（笑）。

鬼気迫らぬピラティス！

森本さんの寝起き姿に筆者もすっかり脱力して頭がぼんやりしてきたので、こころへんでひとつ、ほとぼしるヤングパワーを拝見したいところだ。

シャキッと活発なやつがあればお願いできますか？

するとお二人、棚からヨガマットとヨガポールを取り出し、床にセットして実演してくださった。

森本「身体を動かす系のプログラムとしては、このピラティスがあります」

中川「こんな感じですかねえ。講師の先生に来てもらって、みんなやっていきます」

ほとぼしるヤングパワーと言うには無理のある気抜け加減だけれど、考えてみれば熱血スタッフに鬼気迫るピラティスを披露されたところで迷惑な話で、このくらいのポンヤカした感じがちょうどいいのだろう。



ヤングパワー2人によるピラティス実演

……と自分を納得させていたのも伝わったのか、ヨガマットの前で立ち尽くす筆者に中川さんが声をかけてくださった。

本当にフレッシュな野菜（の写真）

こうして案内されたのは外にある園芸コーナー、ではなくパソコンのディスプレイだった。

「ものづくりプログラムで皆さんと作った野菜です。実はすでに収穫して料理に使ってしまったので、これは先月撮った写真なんですけど」

現物を拝見できないのは残念ながら、写真で見てもらおうと色艶がよくてフレッシュさが伝わってくる。これで作った料理もいただきたかったなァ。



園芸プログラムで皆さんが作った採れたて野菜（の写真）

ものづくりプログラムってなんだか楽しそうですがどういうものなんですか？

中川「園芸では水やりなどの役割を担う練習、調理ではみんなと協力して作業する練習といった意義があります」

森本「そうやって世話したら実を結ぶ、そして調理したら美味しい料理ができるという達成感もありますし」

ただ美味しいものを食べるだけでなく、そのプロセスが役割分担や協力作業の練習になり、努力が結果につながるという達成感にもつながるのだ。まさに一石二鳥！

各種ゲームとサークル活動

ふと傍らの棚をみると、将棋やオセロ、さまざまなボードゲームなどが置かれていて、こちらのほうも楽しそうで気になるところだ。

これらは何に使うんですか？

中川さんは患者さんが作ったという素敵な帽子（アクリルたわし）を頭にのせられながら答えてくださった。

「サークル活動の枠で行っているボードゲームもありますし、お昼休み時間は皆さん、好きな方は将棋など指しておられますね」



患者さん作の素敵な帽子をかぶった中川さんと将棋盤を片手の森本さん

て、承認されれば、決められた期限と予算で活動を行うというもの。過去には他にも、紅茶サークル、カラオケサークルなど多くの活動があったそうだ。

患者さん達が自ら興味関心を広げ、楽しみながらグループ運営を経験することを目的としているという。

お仕事への思い

さいごに、お二人にうかがった。

デイケアの作業療法士になろうと思われたきっかけについて聞かせてください。

中川「学生時代は作業療法士ではなく、一般企業への就職を考えていたんですが、

実習先のデイケアで皆さんがとても温かく良くしてくださって、この道に進むことに決めました」

森本「僕は足をケガしたときお世話になった理学療法士さんの影響が大きいですね。実はボーチャアプリケなど小物を作るのが好きで（笑）、それで作業療法士を選んだのもあります」

プライベートの趣味について訊くと、森本さんは最近アコースティックギターを始め、音楽教室に通っているとのこと。中川さんはホットヨガを始めて、1年ほど通い続けているという。

きちんと基礎から学び、それを楽しみながら継続する。趣味にも仕事にも通ずるこれらの姿勢が印象的なお二人だ。

宇治おうばく病院を担うヤングパワーで、「きらり」をさらにポンヤカと活気づけていくってください！

（取材と原稿／臨床心理士・名倉）



中川 由貴（なかがわ ゆき）

森本 宏樹（もりもと ひろき）